

滋賀県立

聴覚障害者センター

だより



—117号—

発行日 / 2025年4月10日

発行所 / 草津市大路2丁目11-33

TEL 077-561-6111

FAX 077-565-6101

HP <https://shigajou.or.jp>

所長の挨拶

滋賀県立聴覚障害者センター

所長 中西 久美子



新年度は、満開の桜を見上げながらのスタートとなります。年度替わりは、進学、進級、転勤、転職、部署異動など、別れと出会いの季節です。

皆さまには、日頃から滋賀県立聴覚障害者センターにご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今年大きな行事である「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025（国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会）」を成功させるために、約700人の手話・要約筆記ボランティアにご協力いただき予定です。このボランティアが選手や観客のために活動し、一緒になって大会を盛り上げる重要な役割を担えるよう、がんばっていききたいと思います。そして、東京2025デフリン

ピックは、1924年にパリで第1回デフリンピックが開催されてから100周年という、歴史に残る大会になります。この記念すべき大会の開催を契機に、デフリンピックやデフスポーツへの理解のすそ野を広げ、障害のあるなしに関わらず共にスポーツを楽しむ、互いの違いを認め、尊重しあう共生社会づくりを進めてまいりたいと考えています。

当センターは今年10月で設立30周年を迎え、施設や設備の老朽化が進んでいます。厳しい財政状況の中で、今後、改修等に要する費用の増大が財政運営面での大きな課題となっております。皆さんのご意見やご要望を積極的ににお聞かせいただくと幸いです。

職員一同、皆さまのお役に立てるよう努めてまいりますので、ご指導、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

副所長 就任挨拶 ■ 滋賀県立聴覚障害者センター 中西 俊喜

この度、副所長に就任いたしました。まずは、日頃よりたくさんのご支援をいただき、本当にありがとうございます。新しい役職をいただき、身の引き締まる思いですが、周りの方々と協力しながら、より良い環境を作り、組織の成長に貢献できればと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【新規採用】

滋賀県立聴覚障害者センター 橋口 泉穂

今年度より、滋賀県立聴覚障害者センターで勤務させていただくこととなりました。前職の経験を活かせるのであれば活かし、新しい業務もどんどん覚えて、きこえない人、きこえにくい人たちやセンターの皆さんのお力になれるよう頑張ってまいりますので、よろしくお願いいたします。



【新規就任】

滋賀県立聴覚障害者センター 主任 大隅 麻奈美

この度、主任を拝命しました。センターをご利用のみなさま、関係団体のみなさまとのご縁を大切に、よりよいセンターとなるよう努めてまいります。至らない点も多々あるかとは思いますが、今後ともよろしくお願いいたします。

【退職】

滋賀県立聴覚障害者センター 戸知谷 由美

3月31日をもって定年退職しました。在職中は、多くの方々にご協力を賜り、ありがとうございました。BIWAKO みみだよりを読んでいただき、感謝しています。今後の購読もよろしくお願いいたします。退職後は、わたSHIGA輝く国スポ・障スポの情報保障ボランティア総括として、本番まで頑張ります。ありがとうございました。

新規登録者になりました

手話通訳者・要約筆記者

◆手話通訳者◆

高橋 みゆきさん



多くの方々にご指導いただき、一緒に学ぶ仲間に恵まれ合格することが出来ました。今後は手話通訳者として自己研鑽に励みます。

村田 陽子さん

このたび、合格することができました。これからどうぞよろしく願いいたします。

◆要約筆記者◆

小和田 佳世さん



講義実習は難しく大変でしたが、新たに見識を広げられました。今後は人に役

立てる力が付くように努力していきたいと思っています。

佐々木 登紀栄さん



講師の方々はじめ、応援してくださったみなさまに感謝申し上げます。要約筆記者としてお役に立てるよう日々精進してまいります。よろしく願いいたします。

吉牟田 真由子さん



関係者の皆さまに深く感謝いたします。今の気持ちを忘れず、多くの人と関わりながら、現場で経験を積みたと思います。

滋賀県立聴覚障害者センター職員研修会

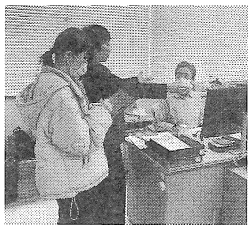
登録意思疎通支援者の健康管理事業を実施しているものの、センター職員は日々の業務に追われ、ここ数年は頸肩腕検診結果も

思わしくなく休職者が出る状況となっております。この事態を重く受け止めた法人労働組合からの要望を受けて、昨年法人内に職員対象

の健康対策委員会が設けられました。各施設に健康対策委員が配置され、それぞれの業務内容に合わせて取り組みが実施されるようになりました。センターでは毎日のラジオ体操に加え、職場環境を考える研修として、去る3月6日(木)に滋賀医科大学特任准教授の北原照代氏をお迎えし、「働く人たちの職場環境と健康」と題してご講演いただき、講演後には実際に事務所内の作業環境をチェックしていただきました。

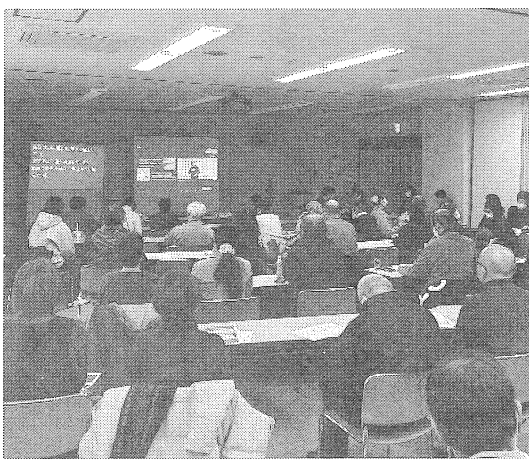
私たちセンター職員はほぼ一日座りっぱなしでパソコンに向き合っており、眼精疲労や腰痛、人材不足による業務過多など頸肩腕障害発症のリスクが高い環境にあります。それでも事業を進めていく為には、健康を守る取組みはもちろん、心理的安全性の担保と職場復帰支援の大切さも職員全員で共有することができました。

聞こえない・聞こえにくい方々の豊かな暮らしを支援するためには、まず私たちセンター職員が健康であることが必要です。今後必要です。今後職場改善の取組みを続けていきたいです。



石川県能登半島地震と 豪雨災害から学んだこと 日曜教室事業 「防災学習」

2/15(土)、日曜教室事業「防災学習」を滋賀県聴覚障害者災害地域救援本部と共催で開催しました。今回は、オンライン講師として石川県聴覚障害者災害救援対策本部 本部長の吉岡真人氏、事務局長の山科孝良氏のお二人にご講演いただきました。



みなさんもご存知のとおり、2024年元日に能登半島地震が発生し、同年9月には奥能登豪雨

災害がありました。その際の被害や被災されたきこえない・きこえない人の支援、復興に関する内容を手話でお話しいただきました。滋賀県は幸いにも大きな災害に見舞われたことが少なく、しかしその分災害時の対策など準備不足であることは否めません。発生が近いと言われている南海トラフ地震、その他にも滋賀県には多くの活断層があります。何か起きてからでは遅い。今からできることは何か、参加者みんなで考えることのできた学習会でした。

聴覚障害児及び 保護者サポート事業 デフバレー体験を しました！

2025年1月18日(土)、聴覚障害児及び保護者サポート事業を開催しました。今回はデフキッズのスポーツ体験として滋賀デフバレーボールクラブの皆さんにご協力いただき、バレーボール体験をしました。

寒い中ではありましたが、聾話学校の体育館に、子ども13名、保護者11名、総勢24名のご家族が参

加されました。

緊張もあってか、少し参加者同士の距離がある状態でスタートしました。ボールを投げる、取るなど、ペアになつて体を動かし始めたころにはすっきり打ち解けて、子どもも大人も楽しんでいました。



今回は参加者の年齢も幅広く、普段スポーツはしないという子どもも参加していました。周りの人にアドバイスを受けながら何度も挑戦して、自分の投げたボールがネットを越えたときには「できた！」と驚いて、本人も周りも大喜びでした。参加者からも、スポーツや体を動かすこと、そして、仲間と一緒にスポーツを楽しむ喜びを感じられるきっかけになったと大変好評でした。

台に乗ってネットの上からボールを投げ入れる体験では、選手の方々がジャンプして見る高い場所からの視点を、少し味わえたの

ではないでしょうか。この景色をもう一度見たい、とバレーを始めの子がいたら嬉しいですね。

今回ご協力いただいた滋賀デフバレーボールクラブは、今年の秋開催予定の「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」にも出場されます。バレーボールクラブの活躍にも注目していきなすね！



第4ブロック 意思疎通支援 担当者研修会

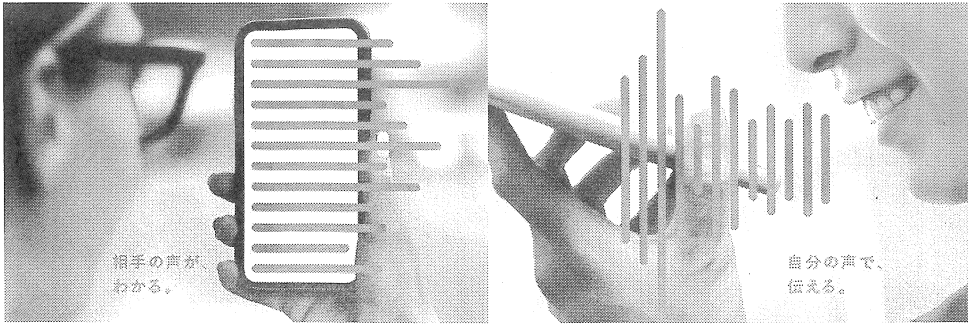
2月25日(火)、奈良県社会福祉総合センターにて意思疎通支援担当者研修会が行われました。

テーマのひとつとして「合理的配慮に伴う意思疎通支援事業への影響について」があげられました。ある市では「合理的配慮の提供の義務化」により個人派遣を行政か

ら断られるケースが多発しているとのことです。昨年度は当事者団体の強い要望で派遣可能となりましたが、今後はどうなるか。また他市や全国への影響も心配されます。事業者が通訳を準備するといふ配慮はもちろんです。通訳をつけてほしい」と当事者が交渉する力も必要になります。

また、合理的配慮としてUDトークなど音声認識を活用していることもあります。ただし、活用には聞こえる人の注意が必要です。誤変換も多くあるのに、その間違いに気づかないまま、聞こえない人は便利だと使い続けることになります。音声認識は話す側、聞こえる人がより注意する必要があります。

そして、どの地域も課題として共通するのは「意思疎通支援者の不足」。人数が足りないのはもとより、近年増加している配信を前提とした通訳を担える人材を増やすことも大きな課題です。配信ニーズが増加することを予想し、滋賀では登録者に対し、映像研修を積極的に取り入れたいと考えています。



相手の声が
わかる。

自分の声で、
伝える。

もっと多くの方が電話を使えるように、
新しいコミュニケーションの形を
つくりませんか。

日本電話リレーサービス
総務大臣認定 電話リレーサービス提供機関
一般財団法人日本財団電話リレーサービス

相手の声が読める電話。

ヨメテル

モニター募集中

『相手の声が読める
電話・ヨメテル』
サービス開始！

- 公共インフラとして、24時間・365日、手話あるいは文字を介して即時・双方向での通信(電話)を可能にする「電話リレーサービス」を、みなさんご存じでしょうか?総務省の認定を受けた、一般財団法人電話リレーサービスが提供しています。滋賀県立聴覚障害者センターでは、普及啓発員事業として、電話リレーサービスに関する相談窓口を開いています。
- 2025年1月23日からは、同じく日本財団電話リレーサービスが提供する「ヨメテル」というサービスが始まりました。「ヨメテル」はスマートフォンアプリを利用して電話をかけ、自身の声で伝え、相手の発言は文字で見分ける、というサービスです。こちらも、普及啓発員として相談を受け付けておりますので、
- どんなサービス内容なのか
 - アプリの画面を見てみたい(体験してみたい)
 - 登録方法・使い方が分からない
- など、ご相談・お問い合わせください。今までどおり電話リレーサービスの普及啓発も行っております。
- センターの相談日は、毎月HPのお知らせや動画配信の中もお伝えしていますので、日時を確認の上、事前にご予約ください。

タツノオトシゴ

現在「捨て活」に励んでいます。少し前によく聞いた「断捨離」とは何が違うのか、調べてみました。捨て活は「捨てると同時に何を残すか」、断捨離は「物を通して心や思想といった考え方の在り方を変え、振り返ること」だそうです。ときめくか、ときめかないかで要不要を決めていくという考え方がブームになりましたが、ゆっくりと断捨離する時間がなく、今の私には、捨て活をしているという言葉がしっくりきます。

経験があると思いますが、アルバムなどの思い出の品の整理を始めるとなかなか作業が進みません。手話を始めたところからの手話サークルでの写真や、ろうあ協会の行事に参加したときの写真などがたくさん出てきて、懐かしい気持ちになりながら、整理をしています。

時間の都合で、手話サークルには通えない日々が続いていますが、写真を見ているうちに、自分の原点は、やはり手話サークルなのだと思います。聞こえない人の話を聞き、困っていることがあれば、ともに考え行動する。先日ある方と手話サークルについて話をしたときに、思いが一緒に嬉しくなりました。

写真は結局捨てられずにいますが、捨て活が落ち着いたらサークルにも行きたいと思う今日このごろです。

(M・T)